

セント・ルカ産婦人科

LUKE MAGAZINE WINTER

ルカ新聞

No.28
2013.12.

第31回日本受精着床学会総会・学術講演会（別府市・別府国際コンベンションセンター）

柘ざ
榴くろ

わたしがあなた方を愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること。これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行つたならば、あなた方はわたしの友である。あなた方がわたしを選んだのではない。わたしがあなた方を選んだ。あなた方が出かけていって実を結び、その実が残るよつと、また、わたしの名によつて父に願うものは何でも与えられるよつと、わたしがあなた方を任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。

ヨハネによる福音書 15章12節―17節

「愛する」という言葉は前にも述べたように、日本語では「慈愛」、「大切にする」というニュアンスのほつが近いと思います。時々、自分の命の危険も顧みず他人の命を救つた善行が報道されることがあります。本当に心を打たれます。このような人は、自分の命を懸けてまで他人の命を大切に思い、行動したのであると思います。イエス様はそれよりも大きな「愛」だといわれます。わたしたちはそのような場面にはめぐつたにめぐつたことではありません。が、日常生活、仕事、友達付き合いなどで、他人を「大切に」思いやるために自分が努力する 때가あります。特に大切な人に対しては言わずもがな（しかし、イエス様は大切な人に親切にするのは悪人でも行つと却下しています）。よつて、ここではそのような利害関係のある場合ではなく、日常の場面において出会つた人をいかに大切にしようかということでしょう。そして「本当に大切にしよう」というのは、その立場での「最良の行為を行つたこと」でしょう。そこで最良の仕事ができるためには、普段からの努力が要求されます。わたしたちが努力するのは最良の仕事ができるためであり、それはイエス様が命じたことなのです。そして、それは自分がそれを選んだのではなく、イエス様を選んだといわれます。イエス様が私たちに任命したのです。そして、あなたがこのヨハネの文章を読んだのも、イエス様があなたを選んだからといわれます。この文章を読まれているあなたも、そういう意味で神様から選ばれているといえます。



巻頭言

院長 宇津宮 隆史

記念すべき2013年が過ぎ行こうとしています。今年はなんと言っても第31回日本受精着床学会総会・学術講演会に全国から1,000人を超す参加者を迎え、盛大に、そして無事に終えることができたことがトピックです。これも大分大学医学部産婦人科の宮川勇生名誉教授、榎原久司教授、河野康志准教授のサイエンティフィックなアドバイスに加え、われわれセントラルカのスタッフ全員と、われわれを支持してくれている日本受精着床学会の先生方、周囲の企業、組織の方々のおかげと感謝しております。

40年間不妊治療にかかわり、また20年にわたる開業業務において考えてきたことをすべてこの学会にかけたといつてよいほど、自分の考え、思想、意見をあからさまに表現できました。特に、この生殖医療のもっとも重要な目的とは「生まれてくる子ども」の幸せにあるということをもメインテーマに掲げたことは、多くの方々から賛同が得られました。また、特別講演、招請講演、教育講演、各シンポジウム、ワークショップなどにも自分の関心のあるテーマを多く選べたことは、会長としての特権であると開き直って計画しましたが、案外、皆様にも好評でありましたことは幸いです。さらに、「悪性腫瘍と生殖医療」の公開シンポジウムも各方面からの関心も得られ、今後の生殖医療のあり方のひとつが提案できたと思います。また、参加者にはクール・ビズを呼びかけ、スタッフはおそろいのターコイズ・ブルーのポロシャツと、今までにないスタイルで開催し、これも好評であったことは良かったと思います。また、第1日目の夜の総懇親会では、1時間過ぎた頃から参加者が外出していく姿が多く見られ、おそらく別府の町に繰り出して楽しんだ方が多かったのではないかと想像しております。このように一生に一度の機会に恵まれたことは、本当に感謝して余りあるものと思います。

この感激の学会主催を終えてひしひしと感じることは、われわれ生殖医療に携わるものの「責務」です。1978年の世界で初めてのART成功から35年、当時では想像もできなかったほどの進歩を遂げていますが、しかしその目的はひとつ、みんなの「幸せ」です。特にわれわれ生殖医療に携わるものにとっては、今はまだここにはいない、そしてわれわれの生殖医療によって

生まれてくる子どもの権利は、われわれが保障してあげなければなりません。特に出生前に診断される子どもの受け入れと非配偶者間生殖医療で生まれてくる子どもの権利は、われわれの考え、行動に重くのしかかっています。その重さを感じることなくこれらの手段を用いることはなりません。この技術での結果は他の医療とは異なり、われわれと同じ「人間」がこの世に生まれてくることに関与していることです。ただ単に子どもがほしい、異常のない子どもがほしい、という患者さんの希望だけを受け入れてことをなすのではなく、これらのさまざまな問題点を患者さん夫婦と話し合い、考え、解決策を試行錯誤し、最も良い方法を選ぶという、面倒でも、時間がかかっても、他人に任せるのではなく、主治医としてそのすべてにかかわり、その子どもが80歳になるまで責任をもつ覚悟がなければなりません。そういう意味で今は非配偶者間生殖医療と受精卵、胎児の遺伝子検査においては、まだまだ検討すべき点が多いと思います。特に遺伝子診断については近い将来、ここ2-3年後には今では考えられないほどの進歩が予想され、関連学会、省庁、果ては国会での審議、検討が早くなされ、広く国民としての意見集約を求めなければならない時期にきていると思います。またわれわれはそれを生殖医療のプロとして広く呼びかけねばならない立場にあると思います。

さて、わたしが関与している児童養護施設別府平和園には、2歳から18歳までの40人前後の子どもが暮らしています。この子どもたち自身には何の責任もなくこの世に生まれ、今のような境遇にいななければならないわけで、さまざまな経験をしてきた子どもたちですのいろいろな困難があります。それに対して献身的にその子どもたちの世話をを行っている保母さん、保育士、その他の方々の努力には本当に頭が下がる思いです。わたしはこの3年、子どもたちの生活状態、職員の業務内容、園の経済状態、将来構想などに取り組んできました。そして今年度に入って2-3週間ごとに職員全員とのミーティングを持ってきました。業務内容を見ると、やはり考えられないほどの複雑な過去を持った子どももいるわけで、今までの業務手順ではそれらに対する対応が不十分なこともありました。それは早急に改善するように動いています。また経済的には本当に厳しいものがありそうで、公認会計士の先生に入っていました。そのようにして、子どもたちがのびのびと生活でき、職員が少しでも安心して働ける平和園にしたいと思っています。皆様のご支援をお願いいたします。





研究室だより

当院院長が学会長として第31回日本受精着床学会総会・学術講演会が別府ビーコンプラザにて行われました。会期2日目の8月9日(金)に、**市民公開講座「がん患者と生殖医療」**が行われました。

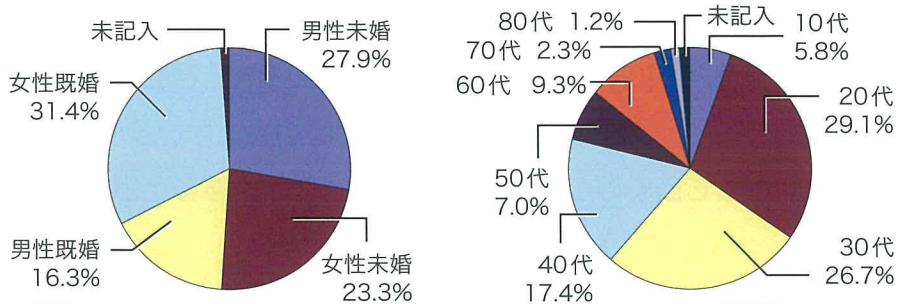
この公開講座は、受精着床学会員のみならず一般市民を対象とし、白血病元患者さん、各分野においてがん治療に携わっておられる医師、卵子凍結保存の普及に尽力されている団体の事務局の方など、6名を全国よりお招きし、貴重な講演をしていただきました。

講座終了後、参加者にアンケート記入をお願いしました。



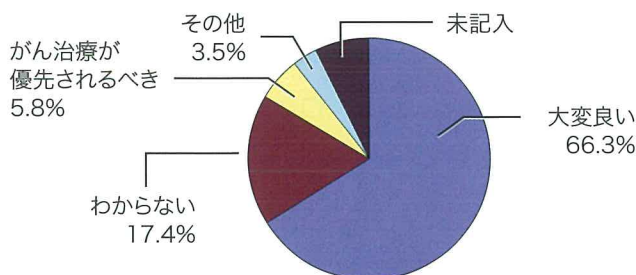
培養室の小池恵も、マウス実験の成果を発表させていただきました。

来場者数 113名 アンケート記入者数 86名 (回収率: 76.1%)



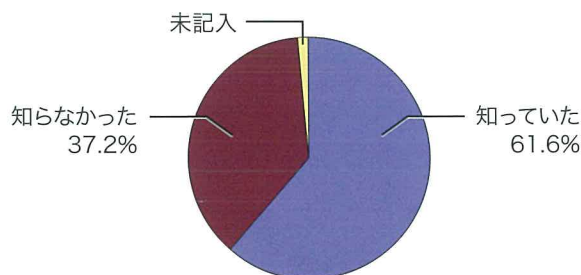
男女、既婚者・未婚者問わず、幅広い年齢層の一般の方が参加されました。参加者のなかには、現在、身近に治療をしている方や、かかりつけの病院で勧められて来た方、また、夫が白血病発病6か月後に死亡したことがあり、現在一番社会で注目していることから、という方もいました。

Q がん治療をしながら、生殖医療を同時進行で行うことをどう思いますか？



その他の意見として、
「患者さんが生きる希望を持てることは良いことだと思う。」
「患者本人が望むことに添えればよいと思う。」
といったコメントがありました。

Q 抗がん剤が生殖能力に影響を及ぼす可能性があるかを知っていましたか？



参加者より
「がん治療によって閉経してしまうということを初めて知りました。」
「抗がん剤治療の前に、患者に生殖能力との関係性について十分な情報を提供すべきと思った。また、投与後であってもあきらめずに不妊治療にあたるべきだと思った。」
「化学療法を行う際に、妊娠希望かどうか、凍結を進めてもらえるような選択肢があるとよい。」
といったコメントが挙がりました。

Q この講座内容で何が分かりましたか？ 今後何を期待しますか？

- ・がん治療とそれがもたらす不妊についてがん治療医がすべての患者さんへ情報できる社会を期待します。
- ・医療の常識や科にとらわれることなく、患者さんの QOL 向上のため最大限の努力をしていくことが大切だと思いました。
- ・病気の治療前に温存治療等選択肢が色々あるということが解りました。
- ・このテーマについて色々な見方をすることができることがわかった。
- ・配偶子の保存技術、不妊治療の発展、がん治療との連携などによって、妊娠をあきらめなければならない人が減ってほしい。
- ・最新の生殖医療の実態が分かりました。倫理的な問題の議論も頂きたい。

その他、参加者の皆様からたくさんの意見や要望、不安に感じていることなどが寄せられました。生殖補助医療従事者として、精子や卵子の妊孕性温存のための正確な情報を幅広い分野に広め、患者さんの治療後の QOL 向上のために努めなければならないと感じました。

看護部だより



妊娠・出産に対する意識調査

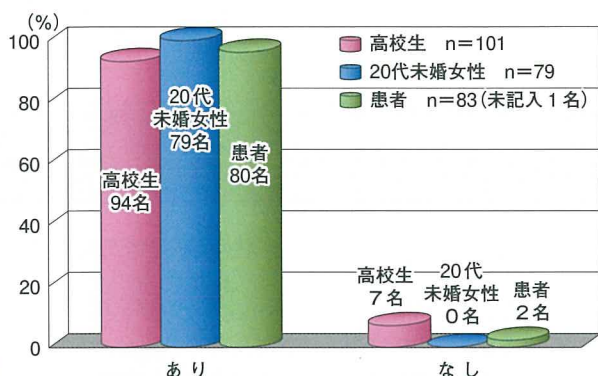
— 高校生・20代未婚女性・不妊症患者を対象に —

看護部 岡田 清美

高校生・20代未婚女性と当院で治療中の患者が、どのように性や結婚・妊娠・出産について考えているのかを質問紙にて調査しました。

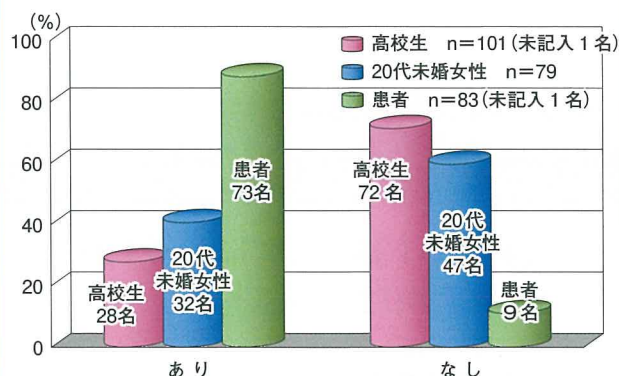
調査に協力して下さった当院治療中の患者さんに感謝します。

不妊という言葉を知っていますか？



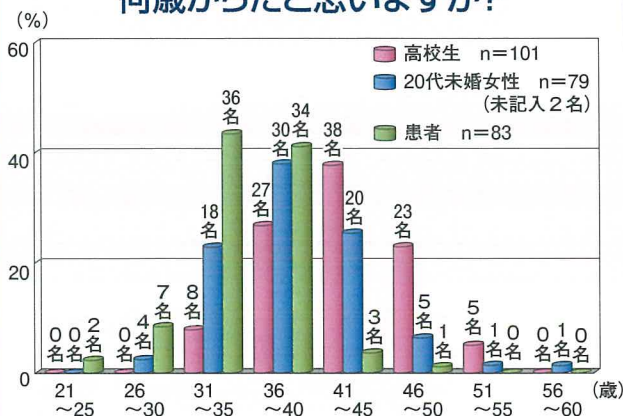
高校生94名93%、20代未婚女性79名100%、当院治療中の患者さん80名96%が聞いたことがあると答えています。

卵子の老化・卵巣予備能という言葉を知っていますか？



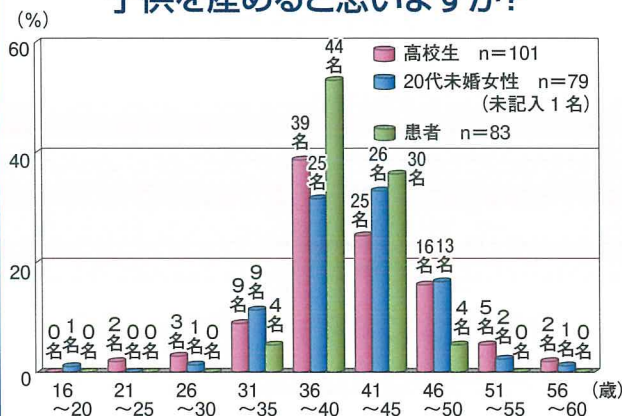
高校生28名28%、20代未婚女性32名40.5%、当院治療中の患者さん73名88%が聞いたことがあると答えています。

妊娠が難しくなるのは何歳からだと思いますか？



高校生は41歳～45歳、20代未婚女性は36歳～40歳、当院治療中の患者さんは31歳～35歳と答えています。

一般的に何歳まで子供を産めると思いますか？



高校生の48%、20代未婚女性の53.2%が41歳～60歳まで子供を産めると答えています。当院治療中の患者さんは41%が41歳～50歳と答えています。

年代に関わらず「不妊」という言葉はよく知られていることがわかりましたが、詳しい実情は知らないことが明らかになりました。早い段階から生殖についての正確な情報に基づいた教育が必要であると考えられます。

第31回日本受精着床学会総会・学術講演会大成功!!

会期:2013年8月8日~9日

会場:別府国際コンベンションセンター (B-Con Plaza)

第31回日本受精着床学会総会・学術講演会が開催されました。1000人を超える参加者があり、大成功に終わりました。

開催にあたり御協力して頂いた先生方、各企業の皆様のお蔭で無事に二日間に渡り学会を開催することが出来ました。ありがとうございました。

院長は、会長講演で「これからの生殖医療 産まれてくる子供のために」というテーマで、非配偶者間人工授精 (AID) で産まれた人のグループと関わりを持ち我々の行っている生殖医療の結果、このような方々が存在することを無視できないと思っているとご講演されました。



アメリカ生殖医学会2013 (ASRM)

会期:2013年10月13日~19日

会場:アメリカ ポストン

ポストンで開催されたアメリカ生殖医学会に参加させていただきました。ポスター発表総数が1343題もあり、会場の広さに圧倒されました。セント・ルカからは、看護部1題、研究室1題、院長1題の計3題のポスター発表をさせていただきました。英語での質問に苦労しながらも、何とか回答することができました。

ポストンの紅葉にはまだ早かったですが少しずつ木々が色づいてきており、とても美しい街並みでした。ポストンにはメジャーリーグのレッドソックスがあり、試合を観戦することができました。臨場感たっぷりの試合でとても楽しむことが出来ました。



The 9th Conference of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility (ポスター賞受賞)

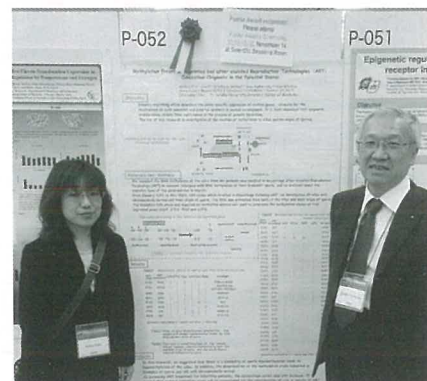
会期:2013年11月13日~14日

会場:神戸国際会議場

第9回環太平洋不妊学会が神戸の国際会議場で行われました。

2日間で9つのセッションと2つの特別講演、そして70演題の一般ポスター発表がありました。研究室から2名、看護師1名が参加させていただきました。研究室のインプリンティングの研究より、「流産後得られる絨毛の染色体検査で正常を示した症例のその絨毛と夫精子のメチル化解析」がポスター賞を受賞いたしました。

これを励みに今後も活発に研究を続けていきたいと思っております。



心理相談室より

今年の4月に入社を致しました。臨床心理士の稗田真由美と申します。

以前は、臨床心理士として病院などで勤務をしておりましたが、不妊治療の病院は初めてなので、患者様、先生方また病院スタッフに専門的なことを教えていただきながら、自らの知識、またここでの経験が少しずつ積み重ねられていることを実感しております。

私の仕事は、不妊治療についてだけでなく、生活状況や背景などをお聞きし、一人の悩みを抱える人として理解していくことだと思っております。自分では解決できそうにないこと、悩んでいる気持ちに蓋をしていることは誰でもあることです。その想いが溢れそうになったら是非声をかけてください。一緒に具体的な方向性や対応などを探していきましょう。



《経歴》

精神科病院、官公庁 etc～現在

《趣味》

ふらっと一人？二人？旅…食べ飲み歩きをしながら現地の人と交流すること。
書道…墨の香りに癒されます。

心理相談室よりお知らせ

一人で悩んでいませんか？

治療に関することだけでなく、夫婦・家族関係、仕事との両立、生活ストレスなど…。

ご自分で解決するには難しいことがありますよね。

何か気持ちが落ち着かない時には、是非一度お話に来てください。

受付より

3階中待合室をリニューアルしました（^^）

中待合室のギャラリーコーナーに椅子を設置しました。スペースが広くなりましたのでご利用ください。また、掲示で診療予定や各講座、サークル、クリスマス会のお知らせ、妊娠率など患者さんに向けたご案内をしております。是非、来院の際にご確認ください。



3階には談話室がございます（^^）

談話室にはこちらのルカ新聞を設置しております。また、毎日当院の厨房スタッフが、コーヒー等のお飲み物を準備しております。無料でご利用いただけますので、待ち時間やお帰りになるまでのお時間におくつろぎください。

患者さんの声を聞かせてください（^^）

より良い医療、環境を提供できるようスタッフ全員日々奮闘しております。3階トイレに患者さんの声ボックスを設置しております。何かお気づきのことがございましたら、ご記入いただくと励みになります。

新人紹介



下川侑樹乃(研究室)

初めてのことばかりで学ぶことが多いですが、早く一人前になって患者さんの力になれるよう頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。



後藤厚子(研究室)

週4日午前中だけ検査室にいます。皆様の足を引っ張らない様に、またお役にたてる様に一生懸命頑張ります。よろしくお願ひいたします。



戸高里美(看護部)

全く経験のない分野なので、学ぶ事ばかりですが一生懸命頑張ります。宜しくお願いします。



